

令和2年3月27日

福知山市議会議長 芦田 眞弘 様

予算審査委員会委員長 野田 勝康

## 委員会審査報告書

本委員会に付託された議案について、審査の結果、次のとおり決定したので、会議規則第80条の規定により報告します。

### 記

#### 1 委員会付託議案

##### 【令和2年度予算】

- ・議第105号 令和2年度福知山市一般会計予算
- ・議第106号 令和2年度福知山市国民健康保険事業特別会計予算
- ・議第107号 令和2年度福知山市国民健康保険診療所費特別会計予算
- ・議第108号 令和2年度福知山市と畜場費特別会計予算
- ・議第109号 令和2年度福知山市宅地造成事業特別会計予算
- ・議第110号 令和2年度福知山市休日急患診療所費特別会計予算
- ・議第111号 令和2年度福知山市公設地方卸売市場事業特別会計予算
- ・議第112号 令和2年度福知山市農業集落排水施設事業特別会計予算
- ・議第113号 令和2年度福知山都市計画事業石原土地区画整理事業特別会計予算
- ・議第114号 令和2年度福知山市介護保険事業特別会計予算
- ・議第115号 令和2年度福知山市下夜久野地区財産区管理会特別会計予算
- ・議第116号 令和2年度福知山市後期高齢者医療事業特別会計予算
- ・議第117号 令和2年度福知山市水道事業会計予算
- ・議第118号 令和2年度福知山市下水道事業会計予算
- ・議第119号 令和2年度福知山市病院事業会計予算

##### 【令和元年度補正予算】

- ・議第145号 令和元年度福知山市一般会計補正予算（第7号）
- ・議第146号 令和元年度福知山市国民健康保険事業特別会計補正予算（第3号）

- ・議第147号 令和元年度福知山市休日急患診療所費特別会計補正予算（第1号）
- ・議第148号 令和元年度福知山市農業集落排水施設事業特別会計補正予算（第2号）
- ・議第149号 令和元年度福知山市介護保険事業特別会計補正予算（第4号）
- ・議第150号 令和元年度福知山市病院事業会計補正予算（第2号）
- ・議第163号 福知山市病院事業会計資本金の減少について

## 2 審査の概要

3月9日に、審査グループ①の所属別質疑を開始しましたが、新型コロナウイルス感染者の発生に伴い、途中で延会としました。その後、市議会及び行政も新型コロナウイルス感染拡大防止対策や市民サービスの維持に努めることを最優先とするため、当初予定していた4日間の所属別質疑や総括質疑、自由討議の審査日程を変更し、19日に一括して質疑、討論、採決を行いました。

初めに、**令和元年度補正予算**の審査について報告します。

まず、議第145号の一般管理費（職員人件費）の退職手当の増額補正について、「退職者の内訳と退職理由」を問う質疑があり、「定年退職者17人、早期退職者9人、自己都合等による退職者10人の計36人となる。年齢構成は60歳が17人、50代が11人、40代が2人、30代が1人、20代が5人である。自己都合等による退職の主な理由は、転職、結婚による転居、家庭の都合などである。若い世代が退職しない仕組みづくりが必要であり、入庁後のミスマッチを防ぐためにインターンシップなどを行っている」との答弁がありました。

次に、京の水田農業確立支援事業について、「減額補正の要因」を問う質疑があり、「京都府の財源による補助事業であり、農業生産法人等から市に要望があった5件の事業について予算計上していたが、その内1件が不採択となり、1件が年度途中で要望を取り下げたため、不用額が生じた」との答弁がありました。

次に、**令和2年度予算**の審査について報告します。

まず、議第105号の個人市民税について、「個人市民税が若干増えているが、近年の勤労者の平均所得の傾向」を問う質疑があり、「平成30年度は277万7,000円、令和元年度は280万5,000円、令和2年度は281万円である」との答弁がありました。

次に、民間企業派遣研修事業について、「研修を終えた職員の復帰後の職務と効果の検証方法」を問う質疑があり、「令和元年度はIT系の企業に2人を派遣した。復帰後は情報関係の職務で研修の成果を活かせるようにしたい。民間企業の中で学んだスピード感と経営感覚、ITの活用など、さまざまな場面でアドバイスや提案を行い効果が出ている。また、派遣した民間企業からも福知山市に社員の派遣を受け、仕事の進め方や具体

的なIT活用の手法について提案をいただき一定の効果があった。さらに、研修の報告会を開催し、派遣者の成果発表を行い、研修成果の共有を行った」との答弁がありました。

次に、福知山公立大学運営費交付金事業及び「知の拠点」推進事業について、「今後の財政の投入予定」を問う質疑があり、「令和2年度の運営費交付金は、地方交付税措置分を除くと1億6,900万円であり、その内訳は収支不足分2,000万円と、情報学部を含め学生数が充足するまでの先行投資分として1億4,900万円を支出する。また、「知の拠点」推進事業については、4号館の空調・エレベータ等の大規模改修に係る経費を交付する。あわせて、学生増加や2学部体制での教育研究の充実に向けて、キャンパス長寿命化計画策定費も計上し、今後の大学のあり方と施設の適正配置を大学内で検討する予定である」との答弁がありました。

次に、「福知山市公共施設マネジメント実施計画の進捗状況と課題」を問う質疑があり、「令和2年2月1日時点の数値で未確定ではあるが、令和元年度の単年度削減実績は14施設で3,675㎡、前期計画5年間全体の削減見込みは110施設で1万9,716㎡である。削減目標の148施設4万5,298㎡に対し、施設数は74.3%、削減面積は43.5%の見込みである。課題としては、廃校などの大規模有休施設については施設全体の利活用の検討に時間を要していること、また集会施設など譲渡を予定しているものについては、関係者等への丁寧な説明や協議を行いながら合意形成を行っていることや用地整理と改修工事に時間を要していることなどがある」との答弁がありました。

次に、地域づくり組織支援事業について、「市からの地域づくり組織に対する支出はこの交付金以外に他にもあるのか、また今後の考え方」を問う質疑があり、「組織に対する支出はこの交付金のみで、申請に基づき交付している。予算額は上限額のため、必ずしも満額を交付するものではない。組織によっては京都府等の補助金を活用して事業を行っているところもある。また三和地域協議会では、有償運送事業を行っているため、利用者から料金を徴収し、交付金以外の収入も確保している。さらに交付金の今後については今のところ増額は考えていない」との答弁がありました。

次に、保育所委託事業について、「予算増額の要因」を問う質疑があり、「令和2年度から既存の認可保育所のうち6園が認定こども園に移行すること、また小規模保育所が新たに3園開設されること、さらに認定こども園に移行すると、職員配置人数の要件が増加するなど国が示す委託単価が高くなるため、事業費が増加することが主な要因である」との答弁がありました。

次に、民生児童委員活動事業について、「平成30年度決算審査の自由討議からの『意見・提言』に対して示された今後の方策等がどのように反映されているか」を問う質疑があり、「介護予防・日常生活支援総合事業やオレンジのまちづくり推進事業などにより

住民同士が支え合う地域づくりを支援し、各地域において民生委員の負担軽減を図ることや、民生委員活動のやりがいや重要性について、今後さらに広報や啓発に努める。また、民生委員法や制度の見直しについては、引き続き国及び京都府に対して要望を行っていく」との答弁がありました。

次に、(仮称)福知山鉄道館ポッポランド建設事業について、「寄附金の2億円の範囲内で、地質調査・施設建設などの費用を全てを賄うという理解でよいのか」を問う質疑があり、「令和2年度予算は、寄附金を積み立てている『福知山鉄道館ポッポランド(仮称)整備事業等浅田基金』の1,893万8,000円と、地域振興基金の1,893万9,000円を財源としている。新施設の整備費用は、今後の地質調査業務や設計業務などを進める中で決定することになるが、寄附金の2億円の範囲内で、建設整備費用の全てを賄うのは難しいと考えている」との答弁がありました。

次に、野生鳥獣救護委託金について、「委託内容や、救護する動物の種類及び実績」を問う質疑があり、「京都府の委託金により、京都府北部で発生した傷ついた野生鳥獣の保護及び飼育を、福知山市動物園で行う事業であり、鳥類ではツバメ、トビ、カルガモ、オオミズナギドリ、コウノトリ等、獣類ではノウサギ、カモシカ、モモンガ等を救護した。実績は平成28年から平成30年までの年間平均で、鳥類が39羽、獣類が2匹である」との答弁がありました。

次に、学力向上定着事業について、「予算増額の要因」を問う質疑があり、「新たな取り組みとして、ふるさと学習にかかるスクールバス特別運行に要する経費を計上している。ふるさと学習とは、小学校統廃合が進むなか、六人部・修斉・遷喬・上川口小学校の各校区における地域学習や、来年4月の大江地域3小学校のスムーズな統合に向けた事前の合同学習等を実施するものである」との答弁がありました。

次に、議第114号の介護保険事業について、「新たに導入される訪問型サービスBで生活援助サービスを提供し、補助対象となるのはどのような団体か、またNPO法人などは補助対象になるのか」を問う質疑があり、「訪問型サービスBは、地域住民の方が、地域の困りごとを地域で解決するという理念に基づく住民主体の支え合いサービスであり、補助対象となる実施主体としては、地域住民による地縁団体や協議会などを想定している。NPO法人等についても、地域住民との十分な協力関係に基づいていることを前提として、補助対象になり得る」との答弁がありました。

次に、議第117号の水道事業について、「給水収益18億3,740万の内、滞納繰越となる額の見込み」を問う質疑があり、「これまでの収納実績から、現年度分は97.62%が収納されると想定し、現年度の未収金額は4,373万円と見込んでいます。令和2年度に繰り越す滞納額を5,272万円とし、その内80%にあたる4,218万円を令和2年度中に回収し、不納欠損額を167万円とすると、令和2年度末における現年度の滞納繰越額は887万円と想定される。さらに過年度の滞納分と合計すると5,260

万円になると見込んでいる。なお、年度当初の未収金については、未納とならないように年度当初に集中的に整理を行っていく」との答弁がありました。

次に、議第119号の病院事業について、「新型コロナウイルス感染症対応による影響」を問う質疑があり、「現在進行中であるため、現時点では新年度以降の影響については見通せないが、病院機能をしっかりと維持できるよう、全力で事業執行に取り組んでいく」との答弁がありました。

次に、**討論**を行いました。

#### **反対**

- ・議第105号令和2年度福知山市一般会計予算については、内水対策の継続、準用河川改修、防災対策の強化、有害獣対策などは評価する。しかし、同和行政の継続、事業棚卸しによる一方的な事業の廃止、公共施設マネジメントは行政主導で強引な推進になっているところもあること、ふくふく医療費支給事業はひと月の医療機関負担が府北部の他市の200円と比べ立ち遅れていること、また小中学校就学援助事業の後退は同意できない。次に議第116号令和2年度福知山市後期高齢者医療事業特別会計予算は、受けられる医療について差別する仕組みになっている。次に、議第145号令和元年度福知山市一般会計補正予算（第7号）については、小中学校就学援助事業・特別支援就学奨励事業について、生活保護基準の1.5から1.3に引き下げたことにより、受けられる児童生徒が減少し、子育て支援の後退につながっている。以上の理由により反対する。

#### **賛成**

- ・6月の市長選挙を控えた骨格予算でありながら、「力強く新時代福知山へ向かう予算」として、「主要な7つの事業によるまちづくり」、「財政健全化の取組」、「事業棚卸しの予算反映」など「未来創造 福知山」、「福知山市まち・ひと・しごと・あんしん創生総合戦略」、「第6次福知山市行政改革」の3つの計画を連携し事業計上されている。普通交付税の特例加算の縮減関連や事業の選択と集中、公共施設マネジメント計画の実行、大災害の復旧復興の注力している状況のなか、明るい未来へのまちづくりのため、熟慮を重ねられた予算である。また財政の健全化については、市債残高の対策、企業会計の健全化、土地開発公社継承土地の売却・活用推進を掲げている。以上の理由によりすべての議案に賛成する。

### 3 審査結果

- ・議第105号 賛成多数で原案可決
- ・議第106号 全員賛成で原案可決
- ・議第107号 全員賛成で原案可決

- ・議第108号 全員賛成で原案可決
- ・議第109号 全員賛成で原案可決
- ・議第110号 全員賛成で原案可決
- ・議第111号 全員賛成で原案可決
- ・議第112号 全員賛成で原案可決
- ・議第113号 全員賛成で原案可決
- ・議第114号 全員賛成で原案可決
- ・議第115号 全員賛成で原案可決
- ・議第116号 賛成多数で原案可決
- ・議第117号 全員賛成で原案可決
- ・議第118号 全員賛成で原案可決
- ・議第119号 全員賛成で原案可決
- ・議第145号 賛成多数で原案可決
- ・議第146号 全員賛成で原案可決
- ・議第147号 全員賛成で原案可決
- ・議第148号 全員賛成で原案可決
- ・議第149号 全員賛成で原案可決
- ・議第150号 全員賛成で原案可決
- ・議第163号 全員賛成で原案可決